

八 監 第 8 号  
令和5年6月28日

公立八鹿病院組合  
管理者 富 勝 治 様

監査委員 藤 原 洋 介  
監査委員 藤 井 昌 彦

**令和4年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査意見の提出について**

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和4年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算を審査した結果について、次のとおりその意見を提出します。

# 令和4年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算 審査意見書

## 第1 審査の概要

### 1 審査の対象

令和4年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算

### 2 審査の期間

令和5年6月6日から28日まで

### 3 審査の方法

令和4年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査にあたっては、管理者から提出された決算書について、決算報告書、財務諸表、決算附属書類並びに事業報告書を基に審査を実施した。関係会計諸帳票及び預金残高証明書等の証拠書類と内容の照合点検を行い、財政状態及び経営状況の実態を把握した上で各種資料により、過去数年の経営状況等の推移、他病院や全国平均との比較、並びに経営分析指標に基づく検討や分析、実査を行い、事業の効率執行などを主眼に決算審査を実施した。

### 4 審査の結果

決算書及び決算附属書類等は、法令に準拠して作成され、当監査委員は意見表明の基礎となる適切な監査証拠を入手したと判断した。計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

## 第2 総 説

### 1 事業量

病床数は、422床（一般380床〔八鹿338床、村岡42床〕、療養35床〔八鹿35床〕、結核7床〔八鹿7床〕）である。令和4年度の年間入院患者総数は、103,258人（前年度98,005人）で5,253人（対前年度5.4%）の増。内訳は八鹿病院で6,244人の増、村岡病院が991人の減となっている。病床利用率は八鹿病院が69.4%（前年度64.9%）と増加し、村岡病院は45.9%（前年度52.3%）と減少したが、全体では67.0%（前年度63.6%）と増加した。年間外来患者総数は、129,839人（前年度126,761人）で3,078人（2.4%）

増加しており、内訳は八鹿病院で3,399人の増、村岡病院は321人の減となっている。

## 2 経営状況

### (1) 八鹿・村岡病院事業の収益的収支の状況

令和4年度の病院事業収益は、8,134,121千円（前年度7,833,380千円）で、対前年3.8%の増加、病院事業費用は、8,102,663千円（前年度7,772,192千円）で、対前年4.3%増加し、医業収支比率は85.2%（前年度84.8%）と0.4ポイント好転し、経常収支比率は、100.4%（前年度100.8%）で0.4ポイント悪化した。

病院事業収支は31,458千円（前年度61,188千円）の純利益を計上し、前年度より29,730千円悪化したものの、2年連続で黒字となった。

病院別では、八鹿病院の純利益が43,888千円（前年度13,471千円）と増益となり、村岡病院は純損失12,430千円（前年度純利益47,717千円）と前年度に比べ60,146千円悪化し、令和元年度から3年連続の黒字から赤字に転化した。

医業収益は6,648,263千円（前年度6,334,405千円）で313,858千円（5.0%）の増収となっている。このうち、入院収益は172,543千円（4.0%）、外来収益は112,253千円（7.1%）の増収となっている。

医業費用は、7,805,970千円（前年度7,471,414千円）で対前年334,556千円（4.5%）増加している。費用増加した主なものは、給与費114,680千円、材料費105,538千円、経費92,650千円の増などである。

八鹿病院では、入院患者一人一日当たりの収益が43,850円（対前年825円減）、外来患者一人一日当たりの収益は12,616円（対前年617円増）となった。村岡病院では、入院患者一人一日当たりの収益が32,404円（対前年626円増）、外来患者一人一日当たりの収益は18,084円（対前年319円増）となっている。

#### ① 職員数及び給与費の状況

令和4年度末の八鹿病院及び村岡病院の職員数は、合計616人で、前年度に比べ3人の減員となっている。「職種別給与に関する調べ」における職員一人当たりの平均給与月額479,608円で、全国平均の額593,140円を113,532円下回っている。八鹿及び村岡病院の給与費は、令和4年度は4,710,432千円（前年度4,595,752千円）で114,680千円増加している。

#### ② 医師数の状況

医師数は前年度が3人減員し47人（八鹿病院44人、村岡病院3人）であったが、令和4年度末の医師数は50人（八鹿病院46人、村岡病院4人）と3人増員した。

#### ③ 病院事業の材料費・経費の状況

材料費は、1,063,120千円（前年度957,582千円）で105,538千円増加し、医業収益に対する割合は16.0%（前年度15.1%）と対前年0.9ポイント増加している。

経費については1,078,591千円（前年度985,941千円）と前年度に比べ92,650千円増加した。内訳は光熱水費151,092千円（八鹿病院138,031千円、村岡病院13,061千円（前年度123,442千円））、委託料564,147千円（八鹿病院518,517千円、村岡病院45,630千円（前年度541,105千円））、修繕費62,201千円（八鹿病院58,714千円、村岡病院3,487千円（前年度42,084千円））などが主なものである。

## （2）むらおか訪問看護ステーション

一日平均利用者数は、19.3人（前年度21.0人）と1.7人の減となった。療養料収益は46,441千円（前年度50,854千円）と4,413千円（8.7%）の減収となっている。純利益は4,243千円（前年度13,299千円）と9,056千円減となったものの引き続き黒字を計上している。

## （3）看護専門学校

総収益118,601千円（前年度128,595千円）、総費用157,907千円（前年度155,772千円）で純損失は39,306千円（前年度27,177千円）となり、前年度に比べ12,129千円悪化している。内訳は、収益では事業収益27,360千円（前年度30,148千円）で総収益に対する構成割合は23.1%（前年度23.4%）、事業外収益91,241千円（前年度98,447千円）で構成割合は76.9%（前年度76.6%）となっている。看護学校事業という特殊性により、補助金16,738千円（前年度17,738千円）、負担金交付金41,467千円（前年度48,337千円）と合わせて58,205千円（前年度66,075千円）で構成割合49.1%（前年度51.4%）と外部資金への依存度が高い。

事業費用は154,032千円（前年度148,263千円）であり、主な内訳は給与費107,373千円（前年度102,696千円）、経費22,977千円（前年度21,669千円）、減価償却費22,178千円（前年度22,520千円）となっている。事業外費用は、3,875千円（前年度7,438千円）で、前年度に看護専門学校の建設にかかる企業債（発行年月日 平成4年7月24日 発行額681,700千円）の償還が終わったことから、支払利息1,540千円（前年度5,137千円）が1.0%（前年度3.3%）の構成割合となっている。なお、令和4年度においても看護専門学校寄宿舎建設にかかる企業債（発行年月日 平成5年5月28日 発行額576,000千円）の償還が終了した。

令和4年度卒業生14人のうち、当組合へ8人が就職しており、看護師確保に寄与し

ている。また但馬地域の医療機関の看護師確保にも貢献している。

#### (4) 福祉センターの状況

##### ① 老人保健施設

年間利用者数は施設サービス、短期入所療養介護、重症心身障害児（者）短期入所を合わせた入所者数 33,934 人（前年度 33,138 人）で対前年 796 人増加し、通所者数 11,380 人（前年度 11,130 人）で対前年 250 人増加している。事業収益は 620,797 千円（前年度 600,323 千円）と 20,474 千円の増収となっている。総収益 652,599 千円（前年度 623,579 千円）、総費用 642,278 千円（前年度 645,884 千円）で 10,322 千円の純利益となり 7 年ぶりに黒字化した。前年度純損失 22,305 千円からは 32,627 千円の改善となる。総収益に対する構成割合は、事業収益 620,797 千円（前年度 600,323 千円）で 95.1%（前年度 96.3%）、事業外収益 31,169 千円（前年度 22,949 千円）で 4.8%（前年度 3.7%）となった。

その内訳は、入所収益 465,838 千円（前年度 451,939 千円）、通所収益 127,012 千円（前年度 118,989 千円）が主なもので、事業外収益については、長期前受金戻入 26,062 千円（前年度 19,939 千円）、補助金 3,868 千円（前年度 70 千円）などが主なものとなっている。

費用では事業費用 628,270 千円（前年度 628,869 千円）で総費用に対する構成割合は 97.8%（前年度 97.4%）。事業外費用は 14,008 千円（前年度 16,367 千円）で、2.2%（前年度 2.5%）となっている。

事業費用の内訳は、給与費 463,100 千円（前年度 473,272 千円）で構成割合は 72.1%（前年度 73.3%）、経費 131,102 千円（前年度 120,125 千円）、構成割合は 20.4%（前年度 18.6%）が主なもので、事業外費用の内訳は、雑損失 12,467 千円（前年度 12,183 千円）、構成割合 2.0%（前年度 1.9%）と支払利息 1,541 千円（前年度 4,184 千円）、構成割合 0.2%（前年度 0.6%）となっている。支払利息は前年度に比べ 2,643 千円減額となった。なお、令和 4 年度においても老人保健施設建設にかかる企業債（発行年月日 平成 5 年 3 月 25 日 発行額 534,400 千円）の償還が終了している。

##### ② 南但訪問看護センター

総収益 366,023 千円（前年度 372,208 千円）、総費用 295,136 千円（前年度 301,052 千円）で純利益 70,887 千円（前年度 71,156 千円）となっている。内訳は、事業収益では、療養料収益が 362,560 千円（前年度 370,103 千円）、総収益に対する構成割合は

99.0%（前年度 99.5%）とほぼ全額を占め、事業費用では給与費が 272,218 千円（前年度 276,027 千円）で、総費用に対する構成割合は 92.2%（前年度 91.6%）となっている。

### ③ 居宅介護支援事業所

年間プラン作成件数は 1,361 件（前年度 1,416 件）となっている。事業収支状況は、総収益 18,605 千円（前年度 20,695 千円）、総費用 25,311 千円（前年度 29,400 千円）で、6,707 千円（前年度 8,705 千円）の純損失となったものの、対前年 1,999 千円改善した。事業収益では受託収益が 18,346 千円（前年度 20,565 千円）で総収益に対する構成割合は 98.6%（前年度 99.4%）、事業費用では給与費が 23,508 千円（前年度 27,657 千円）で総費用に対する構成割合は 92.9%（前年度 94.1%）となっている。

## （5）資本的収支の状況

令和 4 年度の医療機器等整備事業は、主なものとして八鹿病院では、多項目自動血球分析装置、全自動尿中有形成分分析装置（33,990 千円）、デジタル X 線透視撮影システム（31,240 千円）、高圧蒸気滅菌装置（14,850 千円）等の更新を行い、心臓リハビリシステム一式（11,000 千円）を新たに導入している。村岡病院では全自動生化学測定システム一式（5,275 千円）を更新し、看護専門学校では多職種連携ハイブリッドシミュレータ（2,904 千円）の新規導入を行っている。

施設整備事業は、主なものとして八鹿病院では非常灯取替工事及び 1 階ホール水銀灯照明更新工事（30,140 千円）、照明制御システム更新工事（10,560 千円）などを行っている。村岡病院では公用車カーポート設置工事（4,125 千円）、看護学校では寄宿舎給湯ボイラ更新工事（3,490 千円）、老人保健施設でも給湯ボイラ更新工事（9,270 千円）を行っている。

資本的支出の総額は 1,167,887 千円（前年度 1,198,540 千円）で、その支出内訳は、企業債償還金 781,293 千円（前年度 839,746 千円）で構成割合は 66.9%（前年度 70.1%）、建設改良費 356,335 千円（前年度 307,864 千円）で構成割合は 30.5%（前年度 25.7%）、投資 30,260 千円（前年度 50,930 千円）で構成割合は 2.6%（前年度 4.2%）となっている。

これらに対する財源は、構成市町である養父市と香美町が負担する他会計繰入金 587,923 千円（前年度 725,562 千円）、企業債 319,000 千円（前年度 278,100 千円）、投資回収金 624,193 千円（前年度 415,454 千円）などで、資本的収入の総額が 1,538,805

千円（前年度 1,425,257 千円）と資本的支出の総額を 2 期連続で上回り、財源不足はなかった。

なお、資本的収入において、他会計繰入金が前年度に比べ 137,639 千円と大きく減収した理由は、前年度に老人保健施設建設にかかる企業債（発行年月日 平成 4 年 7 月 24 日 発行額 379,300 千円）の償還が終わったことから、これにかかる繰り入れが減額となったためである。

### 3 審査意見

令和 4 年度の収支については、組合全体で収入 9,337,145 千円（前年度 9,029,503 千円）、費用 9,266,248 千円（前年度 8,942,048 千円）で差し引き 70,897 千円（前年度 87,455 千円）と 2 年連続で純利益を計上した。

コロナ禍 3 年目となった令和 4 年度についても、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による影響が大きく、新型コロナウイルス感染症患者の入院対応にかかる診療制限の影響等もあったものの黒字を維持した。

黒字を維持できたのは、八鹿病院の新型コロナウイルス対応等に係る補助金を 421,442 千円収入したことに加え、入院収益、外来収益ともに増収となり、6,648,263 千円の医業収益を計上したことによるもので、過去 5 年間で最も高い収益となった。

これは病院自体の経営努力と全職員がコロナ禍においても真摯に、献身的に対応した結果、コロナ前をも上回る地域の信頼を着実に確立しつつあるといえる。

八鹿病院は、構成市町民のための地域中核病院として地域住民の期待が大変大きい。今後も医療の安定供給のために、本体である病院の健全経営の維持が求められる。令和 3 年度に引き続き組合全体で黒字決算となったものの、本業の医業収支については厳しい経営状況が続いている。今後も、構成市町はもちろん、周辺地域からの当病院の利用者増加にも注力し、経費削減にも留意して、さらなる改善に努められたい。

村岡病院は、医療圏人口の減少により患者数が 1,312 人（入院 991 人、外来 321 人）減少したが今後も地域に根ざした医療を継続して取り組み、地域への貢献を望む。

むすびに、八鹿病院の医療従事者としての基本理念である「医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くす」及び行動指針にある「患者中心の医療」、「思いやりのある医療サービスの提供」この理念

を八鹿病院のみならず、組合全体においても大切に事業の運営をしていただきたい。